

松原仁 演説会『咆哮』 第二夜

「日本外交を糺す」真の国益を求めて

平成20年4月9日

大井町駅前 きゅりあん小ホール

●弁士 衆議院議員 松原 仁

今回は「外交でいかに国益を主張するか」という話題で、チベット問題の見解も仰ぎたいのでペマ・ギャルポ先生にお越しいただきました。

シーシェパードが有名になったが、鯨を食べるのは我が国の文化だ。北欧やロシアも食べるが、襲われたのは我が国だけである。捕鯨船に乗り込んだ人は豪政府に引き渡してもすぐ釈放され、日本もする。北欧は刑が重く、日本は軽いからやろうとなる。だが首謀者は米で詐欺を繰り返した男で、反捕鯨団体から支援してもらっているだけだ。日本は弱腰だ。

私は拉致問題と北東アジアの安全保障に取り組んできた。議員なってすぐ拉致議連を作ったが、外交の前に内政問題があった。五名の被害者が戻られたが、横田めぐみさんはまだ帰らない。

金正日が拉致を認めた時、日本は混乱し、憲法改正を是とする意見が増えた。「日本の安全を他国の善良な意志に委ねる」との理念は良いが、現実はどうか。しかし日本人は覚醒した。米側もこれを継続するテロと見なした。

小泉政権はこれに一定以上取り組まなかった。拉致議連は経済制裁の法制化を急いだが、輸出入規制は普通国家が自主的に行い、必要な場合外国や国連などに働きかける。だが外務省は、原則として日本の意志でなく、働きかけられたら参加すると言う。しかも外為法改正に成功しても、ついに拉致問題解決のための専門部署は設営されず、寄せ集めの会議が数回催されただけだった。北朝鮮から偽遺骨が送られた時、細田博之官房長官は私に最大限経済制裁をするべきだと言った。しかし半年経っても制裁せず、遂には会議も行わなかった。

米のヒル国務次官が北朝鮮を拉致支援国家から取り外そうとしている件で、我々は平沼赳夫氏を中心とした議連で乗り込んだ。私は、米国内法で半年間テロ行為を行わなければ規定から外されるとの条文を引き、拉致は継続しているテロだと訴えた。ヒル氏は大統領に意見を仰ぐとってはぐらかし、状況はこう着状態だ。

今、韓国と手を結ばなければならない。保守派の李政権とは拉致民大に共同歩調を取れる。韓国は情報資源を持っている。また六カ国教義も重要で、今後北東アジアの安全保障状況を成す。拉致問題を取り上げれば大きく進展するだろう。中北は組むから、日本は多数派工作のため米韓露と組む必要がある。露は国内問題で積極的でないが、各国議員への働きかけ次第だ。ただ問題は最終的には、嘘のデータを駆使する金正日政権が続く限り解決されない。

昨日の話題の通り、現代は圧倒的権力が世界の制度を変えられる時代だ。十年の努力がたった一週間で灰燼に帰し、外交は内政を圧倒的な力で破壊する。

あまり国益が議論されていないのも問題だ。中国が資源盗掘を始めたとき、外務省は「中間線が未定では資源採掘しない」と言った。だが日中で中間線の認識は違い、中国側が日本によっている。中国の行動への対応を糾すと「中国は中国だ」と言った。日本は一体どう思うのか。尖閣諸島は日本領だ。資源が見つかった中国の主張が起こった。今は自主規制で国会議員も行けない。もし中国人が移り住めば、そのまま中国になる。竹島も日本領だが韓国が占領し、日本人が行けば機銃掃射の恐れがある。われわれは主張をしないのだ。

中国はウィーン条約の、大使館に干渉しない原則を三度明確に侵した。北京の暴徒が日本大使館を取り囲んだとき、本来なら国の面子にかけて守らなければならないのを、なおざりにして一言も詫びなかった。ハンミちゃん一家が駆け込もうとした際、上海の大使館員自殺の件も同様だ。唐家セン氏に、私は一言それらの謝罪は今どうなっているのかと尋ねたことがある。これも一つの外交の場だ。だが政府は何をしているのか。未だ謝罪はない。

チベット問題で高村正彦外相との議論の折、人権大国を目指すなら水面下のみならず、発言も重要だと述べた。存在感のない国はリーダーたりえない。米で日本に対して慰安婦に謝罪を求める決議が採られたが、この事実はない。トルコは米に同じことを言われて、毅然と否定し、基地を使用不可能にすると迫った結果、取り下げられた。主張がなければ国益から遠のく。未来に国益を残すために、ないものはないという勇気も必要だ。

最後にアフガンの米軍と日本の支援部隊について、アフガンでは、米軍侵攻後治安が悪化した。原因はアメリカ大統領選挙直前の、カルザイ氏の選挙だ。ブッシュ氏は治安改善の宣伝で大統領選挙を有利にしようとした。米軍は部族から銃を取り上げ、警察官を置こうとしていたが、急いで部族に警察官の名を与えた。暴力団にである。イスラーム教徒は、米軍統治を21世紀の十字軍と見なすだろう。日本は米軍を選んだのは一つの国益論だったが、非キリスト教社会の日本に寄せられるイスラーム教国の親近感を裏切れば、大きな損失だ。イスラームとの協調は非常に重要である。

米との協調にしても、中国やイスラエルはロビー活動に何百人も使うが、日本は四人だ。もっと増やすべきだ。大量に輸出入する中でのみ繁栄を維持できる国だから、外交は極めて重要なはずだ。

●弁士 桐蔭横浜大学 教授 ペマ・ギャルポ 先生

私は品川区民であり、拉致問題に対する先生の一貫した態度に敬意を表したい。

チベット問題について、今回ほど日本のマスコミが正確に伝えていることはない。チベット人は国内外で、ずっと中国に対して抗議のデモを行ってきた。3月10日に今回の暴動の発端がある。1959年の同じ日、中国はすでにチベットの大部分を占領し、ダライ・ラマ法王猊下に護衛なしで北京に来るように要求があった。それまで高官高僧が同じように誘拐されていた。これは北朝鮮よりも早い拉致事件だった。

日本は中国と戦ったが、チベット人と日本人は殺し合っていない。チベットは中国と異なる。チベットは戦中、中立を守る建前で日本を支援した。かつて日本は戦略的で、矢島保治郎氏が送られて根回しされていた。チベット国旗を修正したのも青木文教先生で、保治郎氏とチベット人の妻との子は先の戦争で亡くなった。日本とチベットの縁である。

今度の暴動は付近の「省」でもデモが広がった。というのも、中国には省や県などに「〇〇族自治区」というものがある。チベット族のそれを集めると中国の4分の1を占めるが、これが本来のチベットなのだ。他にウイグル、モンゴル、満洲、朝鮮族等の自治領があって、朝鮮半島は三つに分割されている。「中国」は69%が漢民族以外の民族で占められているのだ。

チベット人は五輪の政治的利用に怒った。外交では既成事実が重用で、中国は聖地チョモランマ山から聖火を走らせた。また宣伝キャラクターのうちパンダとチベットカモシカは実はチベットの生き物だ。

中国人を11名殺したのはもちろん悪いが、チベット人が中国で殺したのではなく、中国人がチベットで横暴していたのだ。今まで軍人だけだったが、鉄道が走ったせいで今後もっと経済・文化は壊される。チベットはもうチベット人が少数だ。チベット語も役に立たない。戦後世界に植民地は殆んどなくなったがチベットは植民化された。

今回2千名の人がかまされた。こうしている今も想像を絶する拷問が行われているだろう。私の兄も二人、射殺と餓死で殺された。それらが宣伝されて、幸い英皇太子殿下、スウェーデン国王、ドイツ首相などが開会式のボイコットをなさる。良識的な選手も、平和の祭典を血祭りに変えたことに抗議している。米では権活動家の呼びかけでキャンドルサービスを行い、ロンドンやパリでは民衆が中国大使館前でデモを行った。

中国の資源は実際はチベット、或いはウイグル、モンゴルのものだ。チベット人は中央アジアの輝かしい文化や伝統ある国で、本来自分達の意志が自由に達成できなければ、問題は解決しない。

法王は、これ以上は殺されるから止めなさいと仰り、政府は軍を集めているが、抗議は過去60年止まない。人間の尊厳は簡単に銃によって抑えきれない。

もし日本が世界の主導者を目指すなら、アジアの平和を考えなければならない。それを脅かす国は中国だ。毎年軍事予算を倍増し、インド洋で独裁政権を支持し、港を作っている。安部首相が、中国をけん制するために日米印豪で手を組むべきだと言ったとき、正直理にかなった外交政策だと思った。

中国には一刻も早く、五輪主催国に十分な態度に改めて欲しい。人権は世界的な価値で、特定の人を選別されるようなことではない。米議会は大統領がオリンピック開会式に出席しないという決議を取った。日本も見習って欲しい。

拉致問題は人権問題以前に主権問題だ。同じように、我々は法王猊下をいただくから決定に従うが、本来民族自決は当然で、チベット人は自らの意志によって統治されるべきだ。

●対談 松原 仁×ペマ・ギャルポ

松原) ペマさんのお話で、日本がはっきり世界に態度を示すべきというのは大事だ。チベット問題についても日本は消極的で、大国は強烈な意見をカードとしするが、日本はしない。国際的な監視団を出せと政府高官がいうはずだ。それが世界の潮流を決定することもある。世界が日本に注視すれば、発言権が生まれる。本来貸し渋りのようなことも起きなかったろう。

ペマさんにお伺いしたいのは、中国との付き合い方です。中国はデモや暴動があり、共産党も腐っている。内外に強圧政治をしないと崩れるという恐れがあるのではないかと。

ペマ) 中国の留学生は七割、外国で自由のありがたさを知って帰る。自由はパンドラの箱だが、遅かれ早かれ今の体制が壊れる。今の強権体勢を生かしているのは世界の資本主義の悪の部分だ。国内の矛盾をみると、いつ噴火してもおかしくない火山帯だ。

松原) 以前週刊新潮に書かれた反日教育の実態で、教師用教本では生徒に日本への恨みを持つよう語れとあった。これがある人は国内の不満を誘導しているという。反日政策もチベット弾圧もそう機能するのだが、これは続くのだろうか。

ペマ) 良し悪しとは別に、多民族社会は外部に敵がないとまとまらない。日本のように中心的存在があつて、ほぼ同じ価値観を共有する所とは違う。これは仕方なく、厳然と行われる。

松原) 暴力的な覇権主義国家と、五輪参加の是非などを含めて、どう付き合えば北東アジアの安全につながるのでしょうか。

ペマ) チベット問題なら、意志を示す決議や、直接電話して法王と話をするように言うのが理想の関係だ。首相訪日の際、総理は国民の前で問題解決をはっきり訴えればいい。中国は力しか信じず、チベットも長く翻弄されてきた。中国は強気なほうが尊敬され、台頭に付き合える友達になれる。

松原) 非常に重要な指摘だ。日本は結局法王と会えとも国際監視団を受け入れろとも言わない。中国はむしろ不信感を抱く。また日本には力がない。越印などと連携した方がいい。取り囲むように連帯する工作も仕掛けるべきだ。

ペマ) 今回の暴動は非常にいいチャンスだったが、中国は日本に対して過去の反省と言うが、逆転できたはずだった。

巨大市場幻想に企業が飛びつくのも東アジア共同体の議論もおかしい。恨みを持つ国と組むのは自殺行為だ。親しまれている南から東南アジアの国々といかに連携するか、その中に中国をどう取り込むかの議論が理想的な日本外交だ。

松原) ベトナムに行ったとき、靖国神社参拝について聞いてみたが、別に良いという。怒るのは、中国か朝鮮半島と中国を恐れるフィリピンくらいという。インドも親日だ。日本は好意を寄せる国を突き放し、敵対的な国に頭を下げてきた。外交は遠交近攻だ、その中で力をつけ、中国と渡り合えると国になるといい。

最後に、ペマさんから皆様に何かあればお願いします。

ペマ) 一票を大事にし、日本の方向性を間違わないでいただきたい。それから世界全体を冷静に見ていただきたい。日本ほど情報規制されている国はない。世界各国の様子をご覧になり、真実を見て欲しい。

松原) 私からも一言。もし日米関係が大事なら、中国より多くロビイストを送るべきだ。国連にもけじめが要

る。敵国条項が外されない中、日本は評価されないまま国連を通して各国に援助した。人がよすぎた。国際社会では発言しなければならない。

今日は皆様、ペマさんとも、ありがとうございました。